# ２０２７　年度　社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部東京都済生会 東京都済生会中央病院　（病床数　505）【1年次】

| 受入人数 | 【1年次】1名 |
|---|---|

| 常勤・非常勤 | 研修手当 | | | | | | 勤務時間 | 休暇 | | | | 当直/月 | 宿舎 | 社会保険・労働保険等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 基本手当 | | 賞与 | | 時間外 | 休日 | | 有給 | | 夏季 | 年末年始 | | | |
| | 1年次 | 2年次 | 1年次 | 2年次 | | | | 1年次 | 2年次 | | | | | |
| 常勤 | 月額<br>約360,000円 | | 夏期：50,000円<br>（一律支給）<br>冬期：1.5ヶ月 | | 月80時間、年間960時間 | 土日、 祝日、年末年始 | 8:30～17:30 | 14日 | | 有（有給休暇を利用） | 12 月 30 日 ～ 1 月 4 日 | 月4回程度、夜間当番業務 | 有、または条件により住宅補助制度支給 | 社会保険（公的医療保険、公的年金、労災保険、雇用保険）は全てに適用有<br>個人向けの医師賠償責任保険への加入を必須とする |

○ 研修診療科（必修科目）について

| 科目 | 研修内容（手技・症例数・指導医数等） |
|---|---|
| 内科 | 消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、腫瘍内科から20～24週間研修する。各内科サブスペシャルティのcommon diseaseから高度な専門診療まで経験できる。総合診療内科（旧N4病棟）8週間では診療科の枠を超え、内科以外の疾患も含む幅広い疾患を主治医として担当し、指導医・専攻医・研修医による屋根瓦式教育体制のもと、総合診療能力、プレゼンテーション能力、多職種連携能力を習得できる。内科指導医19名。 |
| 救急科 | 救急診療科で4週間研修。ERにおいて一次から三次救急まで幅広い症例を経験できる。なかでも、一次、二次救急が中心であり、頻度の高い症候や疾患について救急専門医の指導のもとに研修する。三次救急にも対応しているため、より緊急性の高い病態に対する初期対応も学ぶことができる。4週間の救急診療科ローテーションだけでなく、夜間・休日当番も担当し救急診療能力を養う。救急科指導医5名。 |
| 外科 | 一般・消化器外科で8週間研修。消化器癌や急性腹症を中心に病棟診療、外来診療、手術に参加し、周術期の全身管理や基本的外科手技（縫合・創処置等）を習得する。指導医のもと幅広い外科疾患を経験し、外科的思考と全身管理能力を養う。外科指導医5名。 |
| 麻酔科 | 麻酔科で4週間研修。手術室業務を中心に周術期管理全般（麻酔前評価、麻酔管理、術後管理）を学ぶ。指導医のもとマンツーマン体制で、気管挿管などの基本的手技や生体モニターを用いた全身状態の調整、術後疼痛管理を習得する。毎朝のカンファレンスや抄読会を通じた症例検討に加え、手術室外業務（術前外来、無痛分娩、ICU等）にも関わり、周術期における全身管理能力を養う。麻酔科指導医3名。 |
| 小児科 | 2年目に慶應義塾大学病院で研修する。 |
| 産婦人科 | 2年目に慶應義塾大学病院で研修する。 |
| 精神科 | 2年目に慶應義塾大学病院で研修する。 |
| 一般外来 | 内科ローテーション中に、内科総合外来で研修する。 |

以下、慶應義塾大学病院から研修医への注意事項
・外科研修はその他の外科系の診療科への振り替えは認めません。
・必修科目がある病院では、必ず必修科目を研修してください。振り替えは認めません。

必修科目の研修ができない場合、選択可能な診療科

なし

○研修アピール
当院の臨床研修プログラムには3つの特徴がある。第1にプライマリケアの基本である内科研修及び救急研修(ER)に重点を置いている点にある。20～24週間の内科研修、一次から三次救急まで網羅した4週間の救急研修や日当直により、豊富なプライマリケア症例、緊急疾患の診療を経験できる。総合診療病棟では科の区別なく内科診療を学べる。第2に社会人・医療人として信頼・尊重される人材となるために、プロフェッショナリズムの醸成を重視している。多職種連携等を通じて社会的使命感や他者への思いやり、自立と自律の精神を備えた医療人を育てている。第3に教育指導体制の充実である。指導医養成講習を修了した指導医を配置し、総合診療病棟や救急外来では上級医とチームを組む「屋根瓦方式」の相互教育システムを確立、切磋琢磨できる環境を整えている。これらを実現するための各種レクチャーやシミュレーションも豊富である。

○研修医からのメッセージ
上級医・指導医・先輩研修医との距離が近く、手厚い指導を受けながら主体的に診療へ参加できる環境です。総合診療内科（旧N4病棟）や救急外来で豊富な症例を経験し、多くの手技や臨床判断力を実践的に習得できます。また、意欲の高い同期や多職種スタッフに支えられ、互いに切磋琢磨しながら成長できる点も大きな魅力です。

研修実施責任者　　足立 智英

※問い合わせ先
担当部署・担当者名：　臨床研修室・小坂邉　徳子

住所：　東京都港区三田1-4-17

TEL：　03-3451-8211（代表）

E-mail：　kensyu@saichu.jp